



第106号

事業団だより



発行

社会福祉法人
千葉県社会福祉事業団
<http://www.cfj.or.jp/>

例年であれば満開の花吹雪の中で
新年度の日を迎えますが、今年の四月
一日は数輪の花を見つけるばかりで
した。
ご家族の皆様、関係する諸団体、行
政機関等の皆様には昨年度も一方な
らぬ御指導をいただきました。しかし、
そのような御指導と励ましに拘わら
ず、未だ厳しいご指摘を受けることも
多く、気持ちを更に引き締め新年度を
むかえました。
四月一日には年度初め式を行い、新
規採用者や人事異動で発令された幹
部職員の紹介を含め、二十九年事業
の骨子について説明を行い、目指す方
向と課題についての理解を深めまし
た。
修繕計画、食事時間や配膳方法の見
直し、更生園の月中活動や養育園の子
供達の卒後の人生設計を見据えた支
援の見直し、保護者会と協働の清掃や
補修作業、日々の暮らしの中に添える
一輪の花の思い。一年をかけて見直し
た事業団の新たな行動規範や倫理綱

「今年も桜の花に背中を押されて」

千葉県社会福祉事業団 理事長 相馬 伸男

領に込められた私達の思いを日々の
支援の中で行動化すること。
全てがここで暮らす利用者さんや
子供達の為のものであり、翻ってそれ
らは必ず職員のもとに大切な宝物と
して、こだまとなって返ってくるこ
ばかりです。
本年度は今後の事業団の有り様を
占う節目の年となりますが、それだけ
に、日々職員が取り組む数々のことが
円滑に進むよう、そしてその姿を数多
くの人に知って貰えるよう理事長と
して果たすべき役割の大きさを感じ
ずにはいられません。
理事長室からは花を落とし、緑濃く
なる桜の木々が遠くに見えます。
日々彩りを変える桜の木々に背中
を押されながら、利用される皆さんの
暮らしが少しでも良いものとなるよ
う、職員にとっても視界良好な職業人
としての歩みが出来よう、今年も数
多くの皆様のお力を借りながら進ん
でまいります。
本年度もよろしく御指導願います。

新規採用職員紹介



右から、熊谷佳苗 森谷愛美 江澤桃子

児童サービスセンター 熊谷 佳苗

趣味・特技

息子が大好きなトーマスのキャラクターを覚えることです。

今後の抱負

お子さんと親御さんと、共に前に進んでいくお手伝いを精一杯やらせていただきたいと思います。そしてたくさん笑顔に出会えるように頑張りたいです。

養育園

森谷 愛美

趣味・特技

趣味はテレビ鑑賞で特技はダンスです。

今後の抱負

社会人一年目なので分からない事ばかりですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

養育園

江澤 桃子

趣味・特技

趣味は食べ歩きで特技はピアノです。

今後の抱負

生まれ育った袖ヶ浦市で障がいのある方への支援に貢献できるように一生懸命頑張ります。よろしくお願い致します。

編集後記

広報委員会

委員長 佐藤 駿

今年度の広報委員会の目標は「持続的な情報発信」です。
昨年度から少しずつ広報活動について勉強を始めましたが、短期的には一過性のものではなく持続的に広報活動を行うにはメカニズムが備わっていることが望ましいそうです。
なので、今年度は広報紙の発行やホームページを頻度高く更新できる仕組みを構築していきたいと思えます。
現在は、各企業・団体において広報活動の重要性が見直しされつつあり、企業経営や団体運営の中枢に直結した業務になってきたとも言われています。
こうした時代や社会のニーズに今後どう応えていくか広報委員会で考え、取り組んでまいりますので、本年度もよろしく御願い申し上げます。

「暮らし、仕事、楽しみ」

更生園

施設長 古川 茂



暖かい季節を迎え中央ロータリーでは昨秋、保護者の皆様に協力頂き花壇に植えていただいた花々が咲きほこり、散歩している利用者の方々や訪れる人々の目を楽しませています。生活の潤いは日々の何気ない暮らしの中にあり、誰かの手により支えられているのだと実感させられます。

障害者支援施設更生園は、法人内の異動で新たにスタッフが二名加わり、新年度がスタートしました。

本年も関係各位の皆様のご協力を頂きながら改善・改革の取り組みを継続し、利用されている皆様の意思決定支援に基づいた「暮らし、仕事、楽しみ」の満足度を更に高める取り組みを職員一丸で進めて参ります。

超高齢化社会を迎えた日本は四人に一人は六十五歳以上の高齢者となる中、高齢化の波は知的障がいのある方にも同様に訪れており、更生園を利用されている高齢の方々にも加齢に伴う心身に変化が現れ、身体機能の低下、疾病や認知症の発症など多くの不

安を抱え医療との連携による支援など配慮が必要な状況が増加しています。

このような状況の中、研究班により一昨年度から「認知症を発症したダウン症の方への支援」について、事例をもとに実践研究に取り組んでいます。

本年度は千葉県知的障害者福祉協会・障害者支援施設部会に加入している施設の皆様にアンケートによる調査へ御協力を頂き、知的障がいのある方の認知症研究を一步進めて参りたいと考えています。

皆様には引き続き更生園の歩みを見守り、ご意見を頂きたいと思いません。よろしくお願いいたします。



「夢見草の頃に」

養育園

施設長 渡邊 泰之



四月十一日桜流しの雨が降り、一面の花莫塵の中、特別支援学校の入学式が執り行われました。

本年度、養育園の新生入生は、中学部、高等部併せて七名でした。一人ひとり名前を呼ばれて大きな声で返事をする姿や、胸を張って校歌を歌う姿、在校生の子ども達からの大きな拍手にはかんだような笑顔を見せる子ども達、退室する際は教諭と共に一人ずつ体育館を後に出来ました。子ども達皆が、最後まで式に参加出来たことは、成長した姿を垣間見られた瞬間でした。本年度どんな学校生活を送るのか、園での生活をより充実させその成長を感じて行きたいと思えます。

昨年度、養育園を卒園した子ども達は、八名でした。社会人としてグループホームから職場に通っている方、成人施設へ移行した方、転校し親元から通っている方、様々です。彼らの今後に期待しながらも、園としてどこまで出来たのか、改めて職員一同考えたいと思えます。



本年度二名の新任職員を含む五名の職員が新しく養育園に着任しました。新しい発想を取り入れながら、有期限である園での生活の中で子ども達の将来の一助となる様、何を伝え、何を学び、どう成長に結びつけられるのか、日々考えていきたいと思えます。

本年度も保護者の皆様の御理解と御協力を頂きながら、子ども達の日々の暮らしが、安心して充実したものとなる様努めて参りたいと思えます。関係諸機関の皆様におかれましても、今後共御協力、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

「新緑のよういきいきと」

診療室 サブマネージャー

今井 直美

診療室では、この四月に常勤の歯科医師を始め非常勤の精神科、内科の医師が交代になり新しいスタッフで診療がスタートしています。「一人一人に寄り添った医療を目指します」をスローガンにスタッフ一同が一丸となり、誰もが健康で幸せな毎日が送られるように等しく適切な医療が受けられる診療所作りを目指して参ります。

今年度は千葉県歯科医師会と協働し障がい歯科の啓発研修を予定しております。



医師紹介



管理医

内田 佐大臣



この度、縁があり再度当センター診療室の管理医として参りました小児科・内科の内田です。

センターに入所されている皆様の健康管理を軸に職員及び一般の患者様の診療をしていきます。健康上問題のありそうな患者様のご相談も承りますのでお申し出ください。



歯科医

竹蓋 菜穂

四月から診療室歯科に勤務することになりました竹蓋菜穂です。日本歯科大学松戸歯学部 障害者歯科学講座に所属しております。

診療室以外でも摂食嚥下リハビリテーションで寮に伺うこともあります。どうぞよろしくお願ひします。

「春を迎えて」

児童サービスセンター

所長 渡邊 真紀



児童サービスセンターでは、新しく臨床心理士を迎え、建物内に子ども達の声が響く機会がふえたように感じます。

サービセンターの受付口には毎年、春には八重桜、秋にはドングリが、来所するお子さんの手で飾られます。「キレイだね〜」「もって行ってあげる」など、お母さんとどんなやりとりがあったのか、ほのぼのとした気持ちになります。

「今日はお口の練習だよ」と言いながら廊下を走り回るAさん、療育中にお母さんと離れられないBさん、兄弟の様子を気にするCさん…。四月から新規のお子さん達を迎えています。四月からまた「あつ」という間に卒園を迎えることでしょうか。

療育訓練は小学校入学と同時に学校の先生方にバトンタッチしていくことがほとんどです。担当相談員は、先生方との引継会議や学校訪問する機会をいただき、お子さんたち各々の様子を見聞きしては療育の終了を確認しています。子育てに忙しいお母さんにとって、療育に付添う一時がちょっと気持ちの和む場となるよう、今年

度もご家族を支えるお手伝いができるばと願っています。今年も宜しくお願いいたします。

「今後のグループホーム」

ながうら地域支援センター

所長 渡邊 真紀

今年度は、昨年同様のスタッフで事業を運営することとなりました。一年からの方針どおり入居者様の移行を進めていく予定ですので、皆さまよろしくお願ひします。

昨年度末に一カ所を閉鎖し、この四月からは四カ所のホームを運営することとなりました。閉鎖したホームは十七年に渡り継続していたホームで、近隣の皆様にはたいへんお世話になり、名残惜しい気持ちで一杯でした。

入居者一人ひとりの希望はもちろんです。勤務先への通勤や支援の度合い(生活力)など様々な角度で検証し、「新しいGHには良いことがある」と前向きになれる移行を進めたいと考えています。

